

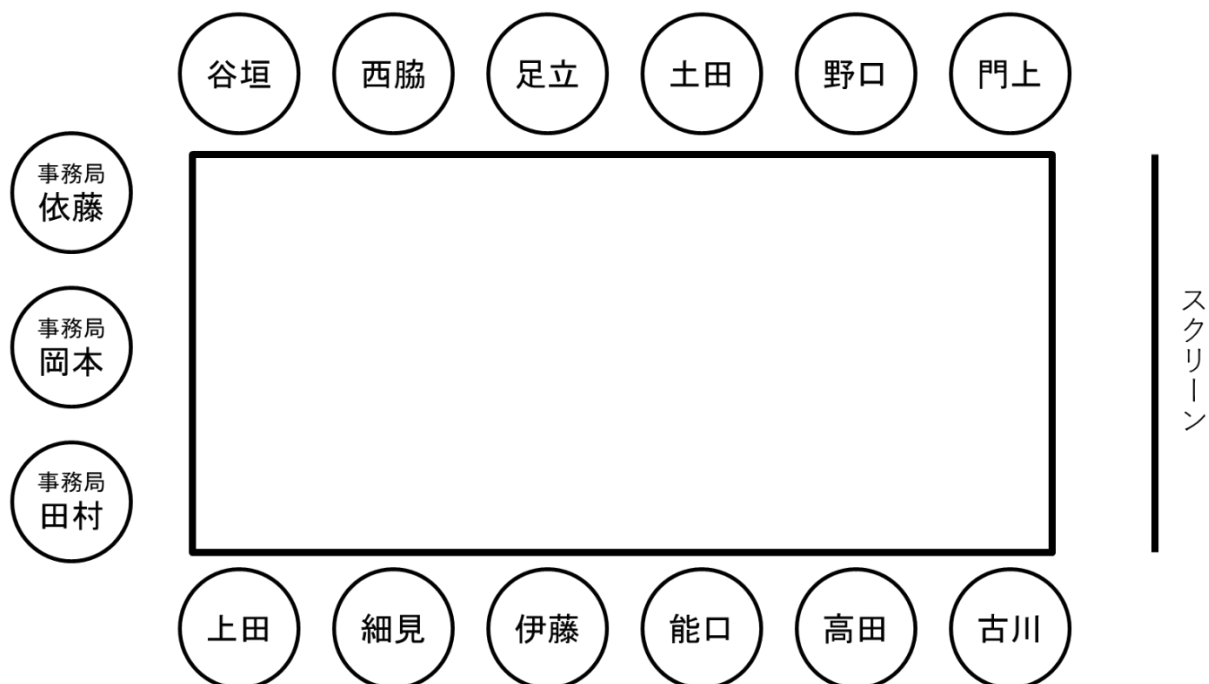
丹波市森づくりビジョン（改定版）策定委員会第2回

議事録

日 時：令和5年8月22日 14時~16時半

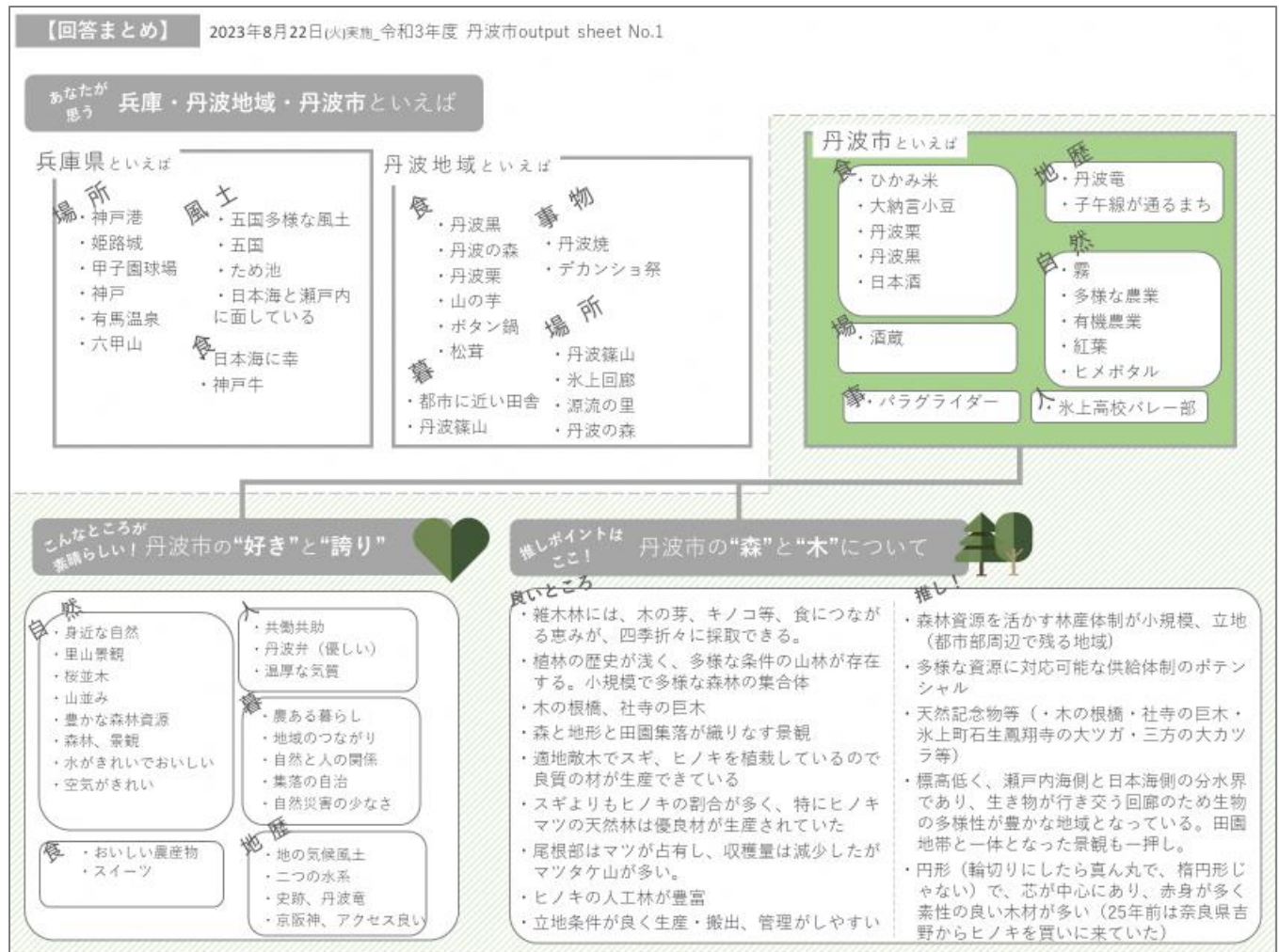
場 所：丹波市立春日住民センター 研修室

参加者：以下座席配置図参照



1 Outputsheet について

- ※まとめ資料については当日配布資料を参照



- 質疑応答

【松茸山は実際どれくらいあるのか】

➤ 委員 C:

- ◇ 毎年、落札をして収穫地を確保
- ◇ 以前まではレクサスが買えるくらいとれていたが、中古の軽トラが買えるかぐらいまでに減った
- ✓ 単価は悪くなっていないが、量が出なくなってきた
- ◇ 気候や松の高齢林化による影響は大きいと考える
- ◇ 地権者に出席いただいて、整備や植林をしている
- ◇ 松は本来尾根筋の崩落防止が役割としては大きいと聞いている
- ◇ 昨年までは空中散布をしていただいたが、今年からは中止となった
- ✓ 柚津、鹿場、下三井庄の地域で散布
- ◇ できるだけ県に協力をいただきながら引き続き活動は取り組みを続けたい

➤ 委員 G

- ◇ 山を見るとところどころ抜き切りされていたため所有者に聞いたところ、直接吉野から依頼されて売ったとのことを聞いた
- ✓ 青垣は良いヒノキが育つということを聞いた

2 アンケート報告

- ・ ※詳細は当日配布資料を参照
- ・ 気づき、意見交換

(委員 H)

- 以前ビジョンをつくった際にも、議題にあがったのだが、大径木化をして価値はあがるのだろうか
 - ◇ 委員 A：大径木にしたからといって上がるわけではない。逆に、大型の機械を入れないといけないということもありコストが高くなる場合もある
- 委員 A：製材機械の大きさが課題になっている。大径木の価格が下がる傾向が出てきたが、ツインソーに入らないため暴落した。ただ、大径材が入る工場が出てきたため解消した。
 - ◇ 兵庫県の場合は、60 c m対応のツインソーを入れたりしている
 - ◇ 36 c m以上は高値で取引されたりもしている。大型製材所の製材機によって価格が変わることはある
 - ◇ 自然落枝で無地材も出るようにはなってきているが、それが山元に戻らない
- 以前から長伐期が木材生産と環境のバランスが良いという話題になったが、今はどうか
 - ◇ 委員 A：皆伐をしたのち、保育事業までできればよいが人材がいらない

(委員 G)

- 放っておくだけでよい大径木ができるという認識の方が多いが違う
- 気になったのが環境税について、知らない人が多いということだが、まだ課税されていないため知らないということも大きいのではないか

(委員 F)

- 間伐と作業道がセットであるため、道をつけたいという意向が強い方に知っていただきたい
- うちの山は何かならないかという相談が多い。最近は国庫帰属で法務局に相談に行くという人も出てきている
- 組合では山を買わないことにしている
 - ◇ 林地供給事業はあるが、商売としてはやっていないので案件を預かったまま

(委員 D)

- 手放したい人は多いのかなと思っていたが予想よりも少なかった

(委員 J)

- 地域内には、所有界が分かる方が多いなと思った
- 環境譲与税の活用について、境界の確定の要望が多い
- 県のデータを見ると、境界確定の情報提供申請をされる方も多い
- 山に対しての所有の意識が、丹波市は高い印象がある

- 航空レーザー計測のデータは県としてある
- (委員 A)
 - ◇ 航空レーザーは杭を打たないため、実際どのように活用できるだろうか
 - ◇ 画像で境界が分かったところで、実際にデバイスをもって歩けば確認、くい打ちはできるだろう
- 県内の北部と比較すると、南部の方が所有意識、財産意識は高い

(委員 C)

- 5 年前に 10 km の作業道をつけてもらい、資材の運搬なども集落でしやすくなった
- ふもとは個人、山頂に近いほど共有林になっている
- 配置が入っている地図なども持っているが、相続という面では公図で確認できるような取り組みは今後も進めてほしい
- よその方にも迷惑をかけたくないという意識もあるのかと思う

(委員 B)

- ・ おおよそ、予想通りであった。
- ・ 山林を増やしたいというような方はずっと山に関わっている方だろう
- ・ 譲与税を知らない方が多いということであったが
- ・ ビジョンの認知度も聞いてほしかった
- ・ 一般の方が特に森に対して期待するのは災害防止面というのが前回と同様の傾向にあるのではないかと読み取れた
- ・ 今回の改定では、さらに突っ込んだ、対策・アクションを明示されたい
- ・ 丹波市全体として、伐期に来ている森林をたくさん所有者は抱えているため、どのように活かしていくか、ポリシーをもってどのような材を育てていくかのねらい目を決められたらよい
- ・ 桐の木は、目的意識をもって成林させているようなところもあるため新たに早生樹などを考えられる際には参考にされたい

(委員 A)

- ・ 世代交代の時に、どう考えているか分からないという方が引き継ぐということで指標を示すこともビジョンでは大事
- ・ 50 代の方は植林をしたことが無い方がほとんどいないのではないか
- ・ 70 代の方は若い時に植えた記憶があるという方はいる
- ・ 所有者の地域性の分類もあるが、市外以外の方も持っている、地域所有の意味も含めて地域で森林を持っていることが評価されないと所有メリットが見えない
- ・ 場所が分からないという不安の解消、管理に対する案人勧、相談としても所有者に対して広いサービスを提供しないといけない時代になると思うのでそのあたりが大事

(委員 H)

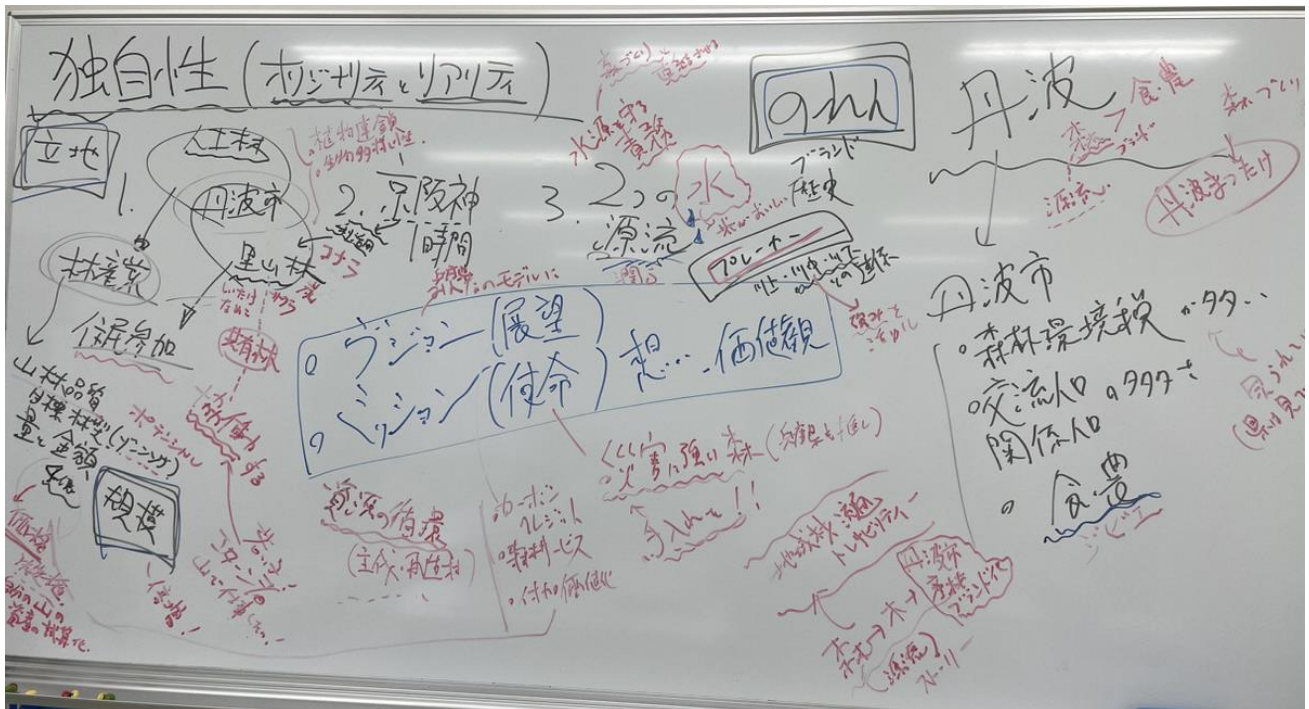
- ・ 以前、所有者と山に歩いたときに、杭の場所をおじいさんに連れられて教えてもらったと聞いた
- ・ 市内と市外の方の意向の違い、所有山林の認識度の違いなどはクロス集計でだしていただきたい

3 ヒアリング報告

- ・ ※詳細は当日配布資料を参照
- ・ ※ヒアリング対象者の事業背景や規模等の一部ヒアリング内容は当日資料には含めていない

4 これからの集中的にビジョンに盛り込みたい項目

- ・ 現行ビジョンのサブタイトル
 - 地域とともに考え、地域の特性を生かした安全で活力ある水源の森林づくり
- ・ 委員 I より補足
 - 独自性（オリジナリティとリアリティ）を示す 3 つの要素
 - ◇ ①立地
 - ✓ 丹波地域（人工林と里山林）
 - ✓ 林産業と地域自治、山林品質、目標林型
 - ✓ 京阪神 1 時間
 - ✓ 2 つの川の源流
 - ◇ ②規模
 - ✓ 4 億円の原木市場
 - ◇ ③暖簾
 - ✓ 「丹波」というブランドロイアリティ、歴史
 - ✓ ただ、森林にまでは波及していないのが現状
 - ✓ 丹波市、兵庫県は全国的にみても環境税が多い地域
 - ✓ 交流人口、関係人口が多い
 - ✓ 農・食が多い



(板書写真)

5 ビジョン、ミッション、想い、価値観について〔ディスカッションテーマ①〕

（委員 H）

- ・ 現行ビジョンの背景としては、丹波地域の伐期を迎える中でこれからどうするかということがメインとして挙げられていた
- ・ 当時よりも状況は大きく変化している
 - 水分れがある、川の上流域として守ることが重要だということで、水源の森林づくりという言葉を入れていた
- ・ これからは環境税を付託されているという認識で森づくりを考える必要がある
- ・ 「協働で育てる森林」について
 - 地域の人たち、年配者だけだと協働できないということで、どこから力を持ってくるかも考える必要はある

（委員 F）

- ・ 資源を循環させるということでは、主伐再生林を推進しているため、本格的に進められたら良いとは考える
- ・ 里山林、住民参画とあったが、丹波まつたけの再生プランを組み入れるというのも一つの展望として考えられる
- ・ 最近若い方も林業事業者として入ってきたりしている

（委員 G）

- ・ 森づくりの目標として、災害に強い森づくりというところは今後も重要なポイント
 - 間伐するにせよ、皆伐再生林するにせよ必要な意識
 - 災害に強い山＝手入れが入った山
 - ◇ 下草が生えた山、事業体によって考えや方法は違うとは思う

（委員 D）

- ・ 災害は当然強い山づくりが必要
- ・ 今、山で仕事をしたいという応募がある
 - どうしても、補助金が無いと施業面積を増やせない
 - 施業面積も増やそうと考えているが増やせない
 - 一部だけではなく、市域全体を考えて面積を増やしたい
- ・ 補助金だけに頼らず、木材以外の部分の収益構造を構築したい
 - カーボンクレジット、森林サービス、付加価値化

（委員 J）

- ・ 現行ビジョンができた平成 24 年から切り捨て間伐から搬出間伐にシフト
- ・ 伸び率も兵庫県は生産量が高い
- ・ この地域は川中、川下に関わりが多い方も多い
- ・ 川中、川下も含めた関係者がいるなかでのビジョンの方針にしていかれた方が理解を得やすいのではないかと考える
- ・ 全国 5 位の譲与税配分の県であるため、全国からも注目されている。川上から川下までが活用されることで全体のモデルケースになるのではないかと考える

- ・ 災害に強い森づくりについては、兵庫県でも 20 億円の事業予算があるため、オリジナル制としてどのようにビジョンに入れていくか

(委員 C)

- ・ 私が管理しているのは里山林
- ・ 最近特に、コナラ（クヌギは少ない）を整備してコナラ林のゾーンをつくっている
 - 炭焼き技術の継承やしいたけ生産などにつなげている
 - 新規林業をしたい方を共有林管理と結び付けて、儲かった分の 1 割ぐらゐは共有林に還してもらえような人材育成もビジョンの中に入りたい
 - 狩猟をする猟師もジビエ関係の食材を提供できるような展開を考えたい
- ・ メインは農業をしているが、やはり水が大事
 - 米がおいしいということで、個人的にも販売をしている
 - 農産物に対しては清らかな水でおいしいコメを作っているという自負がある
- ・ 山を整備することで農業も潤すというイメージは入れられたい
 - 但馬の方では、村とマッチングして山の整備をしながら棺木をとって任せているような活動も聞いている

(委員 B)

- ・ 委員 C さんとほぼ、同じ意見
- ・ 里山林を大切にしたい、里山の魅力づくりができれば良い
- ・ 京阪神が近いということで、街の人にきてくれたらよい
- ・ 里山に近いからこそ、おいしい米が獲れると考えている
- ・ 里山での自給自足ができる魅力も伝えられたらよい
- ・ 里山を整備するということは、獣害対策にも繋がる

(委員 A)

- ・ 約 30 年前に移住してきた。丹波を暖簾と考えた時に、森林で当てはめると弱い。
 - 移住して数年は谷をすべて歩いた
- ・ 水量は少ない
 - 生態系を観察すると、源流という割に大事にしている感覚は薄いように感じた
 - 水源としての大事さを伝えてきたが、取り組みをつくらないといけない
- ・ 加古川流域林業活性化センターがなくなった経緯などもあり、サウンドウッズを立ち上げた
 - もっと水源のイメージはビジョンで出されても良いのでは
 - ◇ 一つの答えとして、丹波市が率先して出していく強い打ち出しも必要
 - 多様な生物も一つの指標として出していければ、豊かな自然が木材の流通が繋がることが見せられないと、ちぐはぐになってしまう
- ・ どれくらいのペースで利用しながらどう変えていくのかをゾーニング等で示す必要がある
- ・ 流通のトレーサビリティ、示す場所を見せられないといけない
 - 流通コストのオープン化などもできていかないと世界基準にはなれない
- ・ 昆虫から順番に、大きな動物まで連鎖が繋がるような、多種、固有種を大事にする森林整備はもっと前に出てきても良いと考える

- ・ 追っかけて地域で見たいところがあると良い
- ・ 数年前に溪畔林を改良したところは植生が変わってきている
 - 今度、植物調査などを入れたいと考えている

6 山林品質について〔ディスカッションテーマ②〕

(委員 A)

- ・ 市内外に木材流通はしていると思うが、木材価格決定権を所有者が持っていない
- ・ 品質管理、流通管理ができる山側のプレーヤーがない
- ・ 直送化が始まった流通をみると、仕分けの手間を省いて量を入れたいといけない
- ・ 本来山で仕分けないといけないものが仕分けなく流通している
- ・ 仕分けをすると、どれくらいの価値になったのか、立木段階で見える化していく必要がある
 - 育てる、販売をするというところで仕事にできれば林業の幅は広がる
 - 暖簾を使って商売をするためにはこの辺り、山側のしわ寄せを残したまま利益追求をすると将来的にはしぼんでしまう。逆張りになるが、計画段階で調査、順番を決めていくことは大事なのかなと考える
- ・ それをもって生産されたものに、丹波市産材のブランドとして流通するということで販売力を延ばしていく方向になるのでは、補助金設計などにも関連する
- ・ 証明だけをいれるということではインセンティブが働かない、補助などでお得だからということを使うということではしかない

(事務局)

- ・ ビジョンをこうしていくべきだろうということ、意見を聞かせてもらって心強さを感じた

【余談】

(委員 H)

- ・ この前は関東のシェフと話をしていた。
 - 山形産のまつたけ 7000 円、丹波の松茸は数万円丹波栗の 3 L は欲しくても手に入らないらしい
- ・ 丹波の森、木材はまだ売り手市場になっていない

7 次回の委員会開催予定

- ・ 10 月 30 日(月)の午後 14 時～16 時頃まで
 - アンケート結果等の共有
 - 施策体系、骨子の共有と議論

以上